

令和8年度 滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」研修会
(みつめなおして、よりよく②) 開催報告

1 趣旨

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の質的向上を目指す市町・学校・地域関係者に対し、講演をとおして、具体的な体制整備に向けた手立て等を学ぶ機会とする。あわせて、参加者の学びを深めるための情報を共有する。

2 主催

滋賀県教育委員会

3 対象

- ・「学校を核とした地域力強化プラン」事業担当者
- ・市町立校園および県立学校教職員
- ・学校運営協議会 関係者
- ・地域学校協働活動 関係者
- ・県および市町の社会教育委員 等
- ・社会教育士

4 日時

令和8年9月17日(木) 13:30～16:30

5 会場

滋賀県庁 東館7階 大会議室(大津市京町四丁目1番1号)

※来場参加またはオンライン参加

6 内容

- 開会行事
- 情報交換・意見交流
- 講演
演題：『地域とともにある学校づくり』×『学校を核とした地域づくり』
～「熟議」と「実践」の一体的推進で相乗効果を生み出す～
講師：香山 真一 氏(文部科学省CSマイスター、
岡山県青少年教育センター閑谷学校 所長)
- グループ協議
テーマ：「地域課題解決のプラットフォーム」としてつなぐ
CSと地域学校協働活動
- 情報提供
京都市教育委員会より
- 閉会行事

7 参加者数

63名(来場参加：40名、オンライン参加：23名)

8 研修会の概要

本研修会を開催するにあたって、参加者から事前に「現場が抱える『一体的推進』への課題や悩み」について意見を集め、研修会の初めに参加者と共有することから始めた。その後、グループ内それぞれの現状や課題について改めて共有し、それらの解決の糸口を見つめることが本研修会の目的であることを確認した。



講演では、香山氏から『地域とともにある学校づくり』×『学校を核とした地域づくり』～「熟議」と「実践」の一体的推進で相乗効果を生み出す～と題し、コミュニティ・スクール（CS）の機能と持続可能な推進策についてお話しいただいた。特定の児童生徒だけでなく「すべての子どもたちの目を輝かせること」を最終ゴールとして掲げ、地域資源や多様な大人との接点を通じた教育の充実が、結果として地域の活性化や持続可能な循環を生み出すと強調された。

また、CSの具体的な成果として、「地域の声を生かした学校マネジメントの強化」と「地域資源を生かした教育の充実」の2点を挙げられた。従来の学校評議員制度が単に意見を述べるにとどまっていたのに対し、学校運営協議会（CS）は基本方針の承認、教育委員会や校長への意見提出、教職員の任用に関する意見具申という重要な権限と責任を持つ当事者組織であることを説明された。



組織運営においては、「学校運営協議会」「学校側窓口（地域連携担当教職員）」「地域側コーディネーター（地域学校共同活動推進員）」「地域学校協働本部」の4点セットを整えることの重要性を指摘された。少数（約10名）の協議会委員だけでは全ての児童生徒を支えきれないため、協働本部を通じて100人規模のサポーターを蓄積していく仕組みづくりや、間をつなぐコーディネーターの役割が極めて重要であると述べられた。

また、「地域」の概念を従来の学区内住民を中心とする「エリア型」だけでなく、防災やキャリア教育などのテーマに応じて広域の専門家から集める「テーマ型」、さらには両者を組み合わせた「ミックス型」へと柔軟に捉え直す方向性を示された。特に探究学習の推進や広域から通学する高校・特別支援学校において、テーマ型やオンラインを活用した人材参画が有効であると提示された。

教員の働き方改革との両立に向けては、土日のイベント引率等ではなく、全児童生徒が参加する授業や総合的な探究の時間、特別活動といった「学校の本丸」の教育課程に地域のリソースを集中投下すべきであると強調された。さらに協議会内に「キャリア教育」「防災」などの部会（ワーキンググループ）を設け、専門ごとに分かれて熟議や年間計画策定を行うことで、熟議の効率化と委員の強みの最大化が図れると述べられた。



質疑応答では、教員の負担感に対する懸念に対し、教員が一人で抱え込むのではなくコーディネーターが間に入って動く仕組みを3年程度かけて軌道に乗せることが不可欠であると回答された。高校段階におけるCS導入が、中高12年間の切れ目ない育成や、地域への愛着・視野の広がりをもたらす大きな価値を持つという見解を示された。

グループ協議では、『「地域課題解決のプラットフォーム」としてつなぐCSと地域学校協働活動』をテーマに、グループ内で解決したい課題を設定し、それぞれの立場から解決へのアプローチやアイデア等を出し合った。グループを構成する様々な立場の参加者がそれぞれの視点から意見を出し合い、活発な協議が行われた。



また、CSアドバイザー相談会では、各市町の行政担当者がCSアドバイザーに対して、聞きたいこと、困っていること、今後の取組の指針など、ご自由にお話しいただいた。協議後には、香山氏からグループ協議と相談会について御講評をいただき、今後の取組に向けて御助言いただいた。



9 参加者のアンケートより

【講演について】

- ・講師の先生のお話や他の参加者の方々と意見交換をする中で、何をしていかなければならないのかが具体的に分かってきました。持ち帰ってじっくり考えたいと思います。
- ・多様な委員の選出について課題を感じておりますが、「エリア型」と「テーマ型コミュニティ」という考え方が委員の選出においてヒントになると感じました。
- ・コミュニティ・スクールの実践を積み重ねることで、児童・生徒が自分の故郷を大切に思い、活動する姿が生まれる例をご紹介いただきました。地域とつながるためには日々の関わりが必要だと感じました。
- ・「熟議と実践」の話であり、単に熟議だけでなく、子どもへの実践を伴うことが重要だと伺い、自分の考えとも一致し、深く同意いたしました。
- ・学校に地域担当を設けるというのは新たな気づきで、そのための課題も見えました。
- ・自校のコミュニティ・スクールを見直すきっかけとなり、視点を変えることができた気がします。香山氏の丁寧な説明には感謝しております。
- ・大人がつながるというCSのイメージから、子どもに返す、子どもの笑顔のためという原点に立ち返ることの大切さに気づきました。
- ・地域連携に関わって15年になりますが、CSの仕組みや協議会委員の選び方・推進員の重要性を再確認し、原点に立ち返った視点を取り戻せた気がします。
- ・現場に戻ると目の前のことをこなすだけに集中してしまい、本当に大切な「目指す子ども像」へのアプローチを忘れがちになります。ただ、教職員との連携がもっと円滑になるよう、推進員の立場を行政がしっかりと保障してほしいと感じております。
- ・私の小学校の課題と他校の課題で共通する、保護者の地域参加への課題について学び

ました。

- ・「テーマ型」「地域型」という考え方はよく理解できました。プロボノという考え方も参考になります。ありがとうございました。
- ・地域型と都市型に分けると、いただいた事例は地域型だと思い聴かせていただきました。それとテーマ型の取り組みを組み合わせで「野洲型」にできればと思います。
- ・エリア型だけでなく、その学校の課題にあったテーマ型を取り入れることで、より充実したコミュニティ・スクールになると考えております。
- ・本校での今後の見通しが少し見えたような気がしますが、なぜ半数の方が協議会に向かえないのかという理由も理解できました。
- ・児童生徒のために、職場の先生方のために良い選択ができるようにしたいと思います。
- ・講演であったように、地域のことを語れる子を育てることで地域とともにある学校、子ども達の未来をつくることのできるという考え方をしっかり根付かせ、「シビックプライドの醸成」という当市の教育目標に基づき、今後関係者向けの研修充実や学校間の情報共有の改善を図っていきたいと思います。
- ・地域と連携し、学校マネジメントを強化することが地域の活力を生むことや、どんな大人に子どもを出会わせるかが最高のキャリア教育になること等、新たな視点を学ぶことができました。
- ・「地域」をエリア型でしか捉えていませんでしたが、テーマ型も取り入れることで、できることの幅が広がると感じました。
- ・保護者支援（PTA会員が減少していく中で、地域と一緒に考えていきたい）の視点も重視し、ゆるやかなつながりのコミュニティ・スクールを育てていきたいです。
- ・CS内の部会設定は「こんな方法もあるのか」と大きなヒントを得られました。
- ・これまで行ってきたことの再認識・再確認でした。8年間関わってきましたが、会長や校長の意向で左右されてきました。ここ3年ほどでさまざまな動きがあり、年間スケジュールも立ってきたところです。これから新しいことを取り入れながら継続していくことが課題です。
- ・地域住民がいつも同じ人ではなく、さまざまな人がさまざまな場所で参加したいと思える活動にしていくことが必要で、そうした多様な分野の方々が関わることで、子どもたちの学びや経験が広がると思います。
- ・今後、本市でCSを推進・充実させていくための大切なキーワードを得ることができました。「子ども達の目を輝かせるために」「地域の魅力を知り育つ子どもを育成する」「部会を設けてテーマを複線化」などが挙げられます。
- ・地域とのつながりのある学校を目指すことは大切ですが、やはり最終目標は「豊かな子どもの育成」であると思います。そのことを中心に置いた学校運営協議会の推進に努めたいと考えております。
- ・地域や校種によって取り組み方が異なることがよく分かりました。

【グループ協議について】

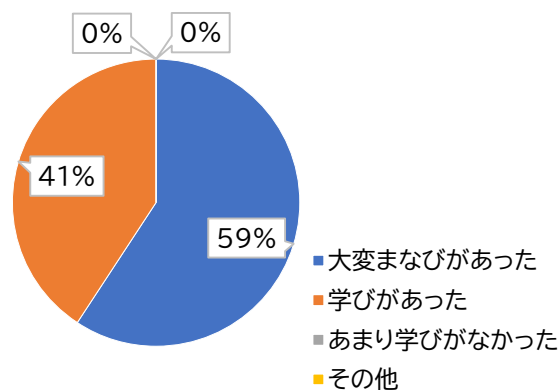
- ・他市町の教育委員会のされていることが参考になり、同じ悩みを持っておられるということも分かりました。また情報交換等で学んでいきたいと思っております。
- ・市として何をやってほしいか、という部分でたくさんのアイデアをいただきました。
- ・地域によって実態が違ふものの、各市町での取組を交流できたことで当市でも取り入れたい方策が見つかりました。
- ・他市町や小学校中学校の現実的な話を聞くことができて良かったです。

- ・高等学校と特別支援学校の4名が協議しました。4校ともにCS設置校であり、ともに課題や悩みが共感でき、話しやすかったです。
- ・全教員参加型の学校運営協議会を実施している学校の取組もありました。
- ・他市町の様子がよくわかりました。教職員からは見えにくい、推進員さんの困りごとが共有できました。人によって考え方に温度差があるからこそ、改めて、熟議の重要性、必要性を感じました。「やっぱ、話し合わなければなりません・・・」
- ・オンラインで参加させていただきましたが、CSアドバイザーより、たくさんのヒントと励ましをいただきました。仕組みづくりの「力をいれすぎずに教員を巻き込めるような」ヒントをいただき、大変勉強になりました。
- ・自身が関わっている小学校のCSの活動、保存食梅干しの作成として、梅干し作り隊の活動、防災キャンプ、また地域交通のこと、そして、コミスクの部屋の話をしていただいて、学校内で集まれる場所があることを他の地区の方に評価していただき、場所の大切さを改めて感じました。

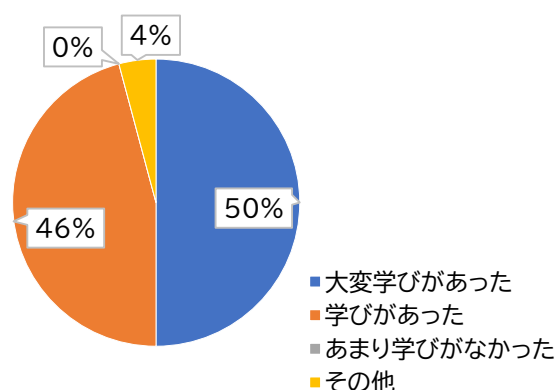
【CSアドバイザー相談会について】

- ・メンバー構成について、テーマを設けて複数で進めていくなど、多くのアドバイスをいただきまして、ありがとうございました。
- ・予算のことは各市で何とかしなければならないとのことでした。簡単に妙案はないと思いました。地域学校協働活動本部をどう置くかについてもヒントをいただけました。
- ・具体例を出しながら相談することで、私自身の頭の中を整理することができました。課題解決につながるかどうかは別として、アウトプットすることも大切だと感じました。また、他市の状況も知ることで、今後に生かせるヒントも得ることができました。

講演



グループ協議



CSA相談会

